

資料3

鳥取県立図書館の目指す図書館像
に係る今後の方針について

鳥取県立図書館の目指す図書館像に係る今後の方針について (第3次改訂版の中間評価・見直し及び第4次改訂)

1 鳥取県立図書館の目指す図書館像(第3次改訂版)に基づく中間評価及び見直しについて

現在、第3次改訂版(令和5年3月改訂、概ね令和5～9年度目途)に基づき、図書館運営を実施中。令和6年度の数値・実績を基に令和7年度に中間評価を行い、必要に応じてサービス指標及び内容の見直しを行うこととする。

中間評価は、令和7年度第1回協議会終了後に各委員に実施していただく評価をもとに、令和7年度第2回協議会で決定としたい。

鳥取県立図書館の目指す図書館像(第3改訂版) 3ページ「〈計画期間〉〈進行管理〉」より

〈計画期間〉

令和5年度から令和9年度までの5年間とする

〈進行管理〉

この計画に基づく具体的取組はアクションプランに示し、毎年度PDCAサイクルにより進捗を管理するとともに、計画の中間年度(令和7年度)に総合的評価を行い、必要に応じて見直しを図る

同図書館像25ページ「アクションプラン(行動計画)」より

〈計画期間〉

令和5年度から令和9年度までの5年間とします。

〈進行管理〉

- ・サービス指標を設け、ホームページ等を活用した積極的な情報公開を行います。
- ・サービス指標は令和3年度の数値を基準とし、5年後の具体的な目標値を定めます。
- ・毎年度の鳥取県立図書館協議会で評価を行い、翌年度の事業展開に反映します。
- ・計画期間の中間年である令和7年度には、利用者と関係者による総合的な中間評価を行い、必要に応じて内容の見直しを行います。

参考：鳥取県立図書館の目指す図書館像の概要

- 平成18年3月策定。3度の改訂を経て現在に至る。
- ミッションは「県民に役立ち、地域に貢献する図書館」。
- これを実現するために3つの柱と3つのキーワードをたてて図書館運営を行っていたが、第2次改訂で4つの柱と4つのキーワードに再整理された。
- 第3次改訂では、ふるさとキャリア教育の推進、図書館DXの核となるととりデジタルコレクションの充実及び活用促進、はーとふるサービスや非接触・非来館型のサービスを実現するための電子書籍の導入、学校図書館の機能強化への貢献といったことも追記された。
- 改訂にあたっては、図書館協議会で議論を重ね、検討をいただいた。
- さらに、大串夏身昭和女子大大学名誉教授(当時)、田村俊作慶応義塾大学名誉教授(当時)にもアドバイザーという立場でご助言をいただいた。

2 鳥取県立図書館の目指す図書館像の第4次改訂案について

【第4次改訂の進め方】

- ・令和7年度の中間評価とその後の状況をふまえ、令和9年度の鳥取県立図書館協議会で最終評価と改訂案について協議し、令和10年3月に改訂する。